

| 受理日 | 血対番号 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 | 文献 |
|-----------|-------|------------|---|--|----|
| 2005/6/17 | 50053 | HIV | Eurosurveillance Weekly 2005;10(8) | 抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された | |
| 2005/6/17 | 50053 | HIV | IASR(共同通信2004年12月3日) | 在日外国人のHIV-2型感染が確認された。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | HIV | http://www.aegis.com/news/ads/2005/AD050524.html | 中国東部の当局は1990年以降に売血をした人々に対するHIV検査の実施を開始。当局はAIDS流行の増加を阻止しようと検査を開始。中国保健省は中国におけるHIV陽性患者は84万人、AIDS患者は8万人と報告している。WHOは感染者数を150万～200万人と推定。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | HIV | The Telegraph, 2005年4月14日 | インドのムザファルナガルの市民が、HIV陽性の9才男児の死亡後、少年が民間の血液バンクから提供された汚染血液からウイルスに感染した疑いから市全体にわたる抗議を行った。2005年4月13日のTelegraphの記事によれば、男児を治療した2名の医師の弁護士は男児は治療を受けた他の病院で感染したと主張したことなどについて記載。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | HIV感染、肝炎 | The Tribune, オンライン版2005年3月23日 | インドの会計検査院から多くのユニットの血液がHIVおよび肝炎に対する必須のスクリーニングなしに国立病院で患者に輸血されたと最近発表された。複数の医療機関が血液をHIVもしくは肝炎の検査をせずに輸血をしていた。ある病院では、HIVおよび肝炎検査キットが入手できなかったため、検査無しで1235ユニットの血液が使用されたと報告したことなどが記載されている。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | HIV感染、C型肝炎 | HPS Weekly Report, Vol.39, (2005/3) 21-22, (2005) | Scottish National Blood Transfusion Service (SNBTS)による献血血液の検査において278054の血液中計39で血液媒介感染症の陽性マーカーが確認されたこと、39件の感染血液はHCVが23件、HBVが8件、HIVが3件、過去の梅毒が5件であった。 | |
| 2005/6/17 | 50053 | HTLV | J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7 | ヒトリンパ球向性ウイルス(HTLV)-IとHTLV-IIの性感感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。 | 3 |
| 2005/7/8 | 50071 | HTLV | Reuters News 2005年2月26日 | 今までヒトでは感染が確認されていなかった2種類のリンパ球向性ウイルス(HTLV-3, HTLV-4)が初めて人から分離された。 | 4 |
| 2005/6/13 | 50052 | HTLV | The New York Times, February 26, 2005 | アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起こすウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っこねられたりして、血液を介して伝播した可能性があると、第12回 Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。これらのレトロウイルスをHTLV-3及びHTLV-4と名づけたが、従来のHIVやHTLVと似ているのかまだ判っておらず、ヒトにどの程度伝播するのかカメルーンの人々について更に検査する計画である。 | |
| 2005/6/30 | 50070 | インフルエンザ | Emerging Infectious Diseases 2004;10(12): 2156-60 | 米国においてブタから七面鳥へのH3N2インフルエンザウイルスの異種間伝播が確認された。 | |
| 2005/6/13 | 50052 | インフルエンザ | RIVM rapport 630940003. Bilthoven; RIVM | 2003年、オランダのH7N7鳥インフルエンザアウトブレイクコントロール期間内のリスクファクター、健康、福祉、ヘルスケアニーズと予防措置に関する調査結果。調査対象となった養鶏場従業員関係者の約千人が鳥インフルエンザに感染していた。調査結果の主な内容:①抗ウイルス薬のオセルタミビルは感染防御効果が見られたが、マスクやゴーグルでは見られなかった。②発症した453人の主要症状は結膜炎で、そのうち89人から鳥インフルエンザウイルスが検出され、そのうち3人は家禽との接触はなく、感染した人との接触のみであった。③感染した家禽業者と接触した家族の59%で抗体が検出された。④流行中感染した家禽と接触した500人のうち約50%に抗体が検出された。 | |
| 2005/6/13 | 50051 | インフルエンザ | 厚生労働省ホームページ H16年12月22日 | 国内(京都)で集団発生した高病原性鳥インフルエンザに関連して、防疫作業従事者等を対象に血清抗体価等の調査を行った結果、対照群と比較して抗体陽性率が高かった。このことから、長期にわたり組織的な感染防御なしに病鳥との接触や汚染環境との接触などが行われていたことから、個人防護具の着用なしに作業に従事していたことにより高率に感染が起こった可能性が示唆された。 | |
| 2005/6/17 | 50053 | インフルエンザ | WHO/CSR,Influenza 2005年12月30日 | 高病原性鳥インフルエンザによる感染がベトナムで拡大している。 | |

| 受理日 | 血対番号 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 | 文献 |
|-----------|-------|-------------|---|---|----|
| 2005/6/13 | 50052 | インフルエンザ | The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40 | 鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。 | |
| 2005/6/13 | 50052 | インフルエンザ | The New England Journal of Medicine 2005;352(7):686-91 | 呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された事例。 | |
| 2005/7/12 | 50072 | インフルエンザ | WHO/CSR 2005年5月 | 2005年1月~4月のベトナム北部におけるH5N1の高病原性インフルエンザA(H5N1)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジアの他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。疫学的、また、ウイルス学的に所見より、ウイルス進化が継続しているものと考えられる。 | |
| 2005/6/17 | 50053 | ウエストナイルウイルス | ABC newsletter 2004年11月5日 | FDAはWNVに対する供血延期期間を28日から56日に拡大することを勧告した。 | |
| 2005/7/21 | 50074 | ウエストナイルウイルス | Transfusion 2004;44(12):1695-9 | ミニプールでの核酸検査を行ったにもかかわらず、輸血で西ナイルウイルスに感染した。 | 5 |
| 2005/6/7 | 50055 | ウエストナイルウイルス | ProMed20050125-0070(ウイルス学生物工学研究センター-Dr. Valery B.Loktev 1月24日) | ウエストナイルウイルス(WNV)が現在ロシア極東地域で循環していることが確認された | |
| 2005/6/13 | 50052 | ウエストナイルウイルス | CBER Guidance for Industry April 2005 | 本ガイダンス案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイダンスの改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされず、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。 | 6 |
| 2005/6/17 | 50053 | エルシニア感染 | ICUとCCU2005;9(2):45-9 | 輸血によりエルシニア感染し死亡した症例。厚生労働省へは報告済み。 | |
| BSE関係 | | | | | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | ProMed、2005年2月8日 | 英国政府から1990年にスクレイピーに感染したと診断されたヤギが、実はBSE(狂牛病)であった可能性が出ていると発表された。 | |
| 2005/6/17 | 50053 | BSE | ABC newsletter 2005年2月11日 | スコットランドにおいて、BSEに感染したヤギが1990年には存在していた。 | |
| 2005/6/17 | 50053 | BSE | ProMed20050129-0060(BBC News 1月28日) | フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明した。これは、ウシ以外の食用動物が牛海綿体脳症(BSE)に感染した初めての事例である。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | OIE disease information, Vol.18 No. 5 2005年2月4日 | フランスでの、BSEの原因である病原性プリオンタンパク質が同定された。成体のヤギ300頭を含む搾乳用ヤギ群で発見されたヤギのBSE症例1例が発見された。症例は2005年1月28日にOIEのBSEリファレンス研究所などにより確定された。原因は、不明もしくは結論に到達していない。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | OIE Press Releases,2005年2月2日 | フランスのヤギにおけるBSEの初症例の発生が確定された。2004年11月にフランス当局がOIEに対し、2002年に処分された際に2.5才であった問題のヤギについて報告したこと、一緒に飼育されていた600頭のヤギ(成体のヤギ300頭を含む)は全て処分され、成体のヤギはスクレイピーについて検査されたが結果は陰性であったこと、感染したヤギから単離されたスクレイピーはさらに調査が進められていることなどが記載されている。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | Pro Med 2005年1月25日 | 2002年にフランスで屠殺されたヤギが狂牛病検査陽性となり、ウシ以外で動物でウシ海綿状脳症(BSE)に感染した世界で初めての動物となった。ヨーロッパ会議はこの症例が単発例であることを確認するための詳しい検査を実施する予定。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | Pro Med 2005年2月3日 | フランスのヤギがBSEに罹患したことが確定された。EU加盟国は、EUで飼育されるヤギに対してBSE検査を強化するとして欧州委員会による提案に同意した。オーストラリア産ヤギも検査される可能性が出ている。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | http://www1.agric.gov.ab.ca/\$department/deptdocs.nsf/all/afs3781?open document | 2003年5月に初めて確認されて以来、2例目のBSE症例がカナダのアルバータ州において最近発見された。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | Pro Med2004/12/30 | カナダ食品検査局は、新たなBSE疑い症例を検知したと発表。12月30日午前発表。 | |

| 受理日 | 血測番号 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 | 文献 |
|-------------|-------|---------------|---|--|----|
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | Pro Med2005/1/2 | カナダ食品検査局(CFIA)は、アルバータ州の高齢の乳牛が検査で牛海綿状脳症(BSE)陽性となったことを確認した。このウシは、飼料規制以前に汚染された飼料から感染したと考えられている。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | Canadian Food Inspection Agency News Release, 2005年1月11日 | カナダ食品検査局(CFIA)は2005年1月11日、カナダの全国(BSE)サーベイランス計画により、アルバータ州の7才未満の個体で、ウシ海綿状脳症(BSE)感染を確認したと発表。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | カナダ公衆健康局2005年1月11日 | 2005年1月11日、カナダ食品検査局(CFIA)はカナダのウシにおける3症例目の牛海綿状脳症(BSE)を確定した。vCJDのQ&Aも記載。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | http://www.aabb.org/Pressroom/In_the_News/new7-1.htm | BSE感染が確定された米国のウシは「国産」で初めての症例と思われる。米国におけるBSE症例は2003年にカナダから輸入されたウシで発見された。2005年6月24日、米国農務省長官により明らかにされ、この動物が食物連鎖に組み込まれる前に阻止されたという事実は、防護対策は有効に働いていることを示していると述べている。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | ProMed, 2005年6月14日 | 今回の米国産BSE可能性患者となったウシは1997年8月以前に生まれしており、この時期は米国政府がBSE感染拡大を予防するための新規飼料輸入規制を実施した時期であるとUSDAは述べた。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | ProMed, 2005年6月26日 | 2005年6月24日、米国農務省(USDA)がイギリスWeybridge(国際BSE委託検査室である)獣医学検査室(VLA)より、2004年11月に食用供給から外された動物検体が牛海綿状脳症(BSE)検査陽性であるとの最終検査結果を受領したことを公表。この米国2頭目のBSE感染ウシはペットフード工場で屠殺されたウシであること、ウシの生産元は不明であるが1997年以前に米国内で誕生したウシであることなどの記載。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月14日 | 米国において、BSE感染したウシは、米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始した。感染源は不明もしくは結論に到達していない。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | ProMed, 2005年6月13日 | 情報源: Alertnet, 6月13日。米国農務省(USDA)は米国のBSE疑いウシは1997年の飼料禁輸措置以前に生まれたと述べた。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | ProMed, 2005年6月21日 | オーストリアのアルペン地方で再び狂牛病のウシが発見された。オーストリアで2例目となる。保健大臣と農業大臣が発表し、原因不明の死亡をした24ヶ月以上の牛に対する標準的安全手順であるルーチン検査により、11才の牛について確認された。感染経路は不明なことなど | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | http://www.oie.int/Messages/050622AUT.htm | オーストリアで2例目のBSE症例が、2005年6月22日検査で診断された。1回目のBSE発生は2001年。問題のウシは1994年生まれで、5月26日に死亡しているのが発見され、それ以前に歩行障害を示していた。病原/感染源-不明もしくは結論に到達していない。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | OIE disease information, Vol.18 No. 25 2005年6月24日 | オーストリアにおける今回のBSE感染ウシの概要。アウトブレイクの原因/感染源は、不明もしくは結論に到達していない。 | |
| 2005/6/13 | 50052 | BSE | J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90 | ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイピー・プリオン(PrP ^{Sc})がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | BSE | KATHIMERINLオンライン版English Version 2005年1月19日 | 2004年前半に、ギリシャ国内のヤギ12頭が、脳変性疾患であるスクレイピーに罹患したと確認された。この他8頭がキプロスで、26頭がフランスで確認された。これは2005年1月18日に公開されたEU統計により判明した。なおEU全域で検査されたヤギは17294頭。 | |
| vCJD発生国情報関係 | | | | | |
| 2005/6/13 | 50052 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | BBC News 2004年11月10日 | アイルランド共和国において、英国滞在歴のないvCJD患者が初めて確認された。この患者は輸血を受けたことはないし、供血したこともない。アイルランド共和国では以前にvCJDと診断された症例があるが、この患者はある時期英国に滞在していた。 | |
| 2005/6/17 | 50053 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed20041124-0040(AFP記事11月23日) | フランスで9例目となるvCJD患者の頻回献血が報告された。該当血液は既に使用されている種、受血者の追跡調査を発表した。 | |
| 2005/7/21 | 50074 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | 厚生労働省ホームページ H17年2月4日 | 輸血歴はなく、英国滞在歴のある国内における最初のvCJD症例が確定された。 | |
| 2005/6/17 | 50053 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed20050205-0040(共同ニュース2月4日) | 本邦において初の変異型ヤコブ病(vCJD)患者が確認された。 | |

| 受理日 | 血対番号 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 | 文献 |
|-----------|-------|---------------|--|--|----|
| 2005/8/12 | 50102 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed, 2005年2月4日 | 厚生労働省は2005年2月4日, 日本で初めての狂牛病のヒト変異型(変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD))患者が確定したと発表。この日本人男性が2004年12月にvCJDのため死亡し, この致死性疾患に1989年の約1ヵ月程度の英国滞在期間中に感染した可能性があると見ている。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Canada Public Health Agency, Infectious Diseases News Brief, 2005年2月18日 | 厚生労働省は2005年2月4日, 日本人で初めての変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)症例を発表した。症例は2001年12月に初めて神経症状を示し, 2004年12月に死亡した40代の男性。患者は1988年に約1ヵ月英国に滞在したことが分かっている(正確な滞在期間はまだ確認されていない), 現在のところ英国滞在中にvCJD感染物質に暴露した可能性が有力である。患者がこれまでに輸血を受けた記録はない。患者が献血をしたことがあるかどうか日本赤十字は調査中。この症例と二次伝播の可能性について更なる調査が行われている。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed, 2005年3月8日 http://news.xinhuanet.com/english/2005-03/08/content_2668406.htm | 日本の厚生労働省は3月7日に, 1980年~1996年に英国およびフランスに1日以上滞在した経験のある人からの献血を断るとした新たな規制を発表していたが, 血液供給が不足した場合にはその規制を見直す可能性があることを表明。コンフォメーション依存性免疫アッセイ法(GDI)と呼ばれる検査法は元来, ウシ, ヒツジ, シカその他の動物での病原性たんぱく質プリオンの種々の形を検出するために開発された方法であるが, ヒトの脳組織中のプリオンを特定するだけでなく, 標準的な免疫学的検査法よりも迅速かつ正確であることが確認された。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Asahi Weekly, 2005年4月11日 | 厚生労働省は先月, 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の拡大を防止するため1980年~1996年に1日でも英国に滞在した人の献血を禁止する計画を発表したこと, 2005年4月11日のASAHI WEEKLYによればこの禁止により今でも少ない血液の供給がこの夏には更に制限されると考えられることなどについて記載されている。 | |
| 2005/7/21 | 50074 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | 共同通信 2005年5月30日 | 献血時のvCJD対策については, H17年5月30日の薬事食品衛生審議会血液事業部会運営委員会の結論をふまえ, 予防的観点から英国に滞在1日以上(1980~96年)の者の献血禁止措置を6月1日から開始することを決めた。 | |
| 2005/7/21 | 50074 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | 厚生労働省ホームページ H17年4月4日 | 英仏滞在者の暫定的な献血制限の方針の経緯, 献血者減への影響見込み, 輸血によるvCJDの発症リスク, 暫定的な措置実施について | |
| 2005/7/21 | 50074 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | 厚生労働省ホームページ H17年3月7日 | 平成17年3月7日に開催された薬食審・血液事業部会運営委員会において協議された当面の暫定措置。1996年までに英に1日以上滞在歴がある者の献血を制限等。 | |
| 2005/6/17 | 50053 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Yahoo health 2005年3月3日 | モロッコで初めてvCJDの疑いのある患者が死亡した。 | |
| 2005/6/13 | 50052 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Ministry of Health/Welfare and Sport/Press release, 22/04/2005 | オランダで最初のvCJD患者について。 | 7 |
| 2005/6/17 | 50053 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Eurosurveillance;10(16)2005年4月21日 | オランダで初めてのvCJDの可能性のある症例が報告された。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed, 2005年4月22日 | 最近vCJDが診断された患者は, オランダにおいて初めて確認された症例である。政府関係者は他のヨーロッパ当局に対し, 患者は献血もしくは組織提供を行っておらず輸血または組織の移植も受けていないこと, この症例が他者に感染を起こす, もしくは他者から感染したとは考えられないと述べた。患者がさらに疾患を伝播した可能性があるか決定するため調査中。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/L21710368.htm | 2005年4月21日オランダで初の「狂牛病」ヒト患者が報告されたが, オランダ産牛肉を摂食することは安全であると発表された。オランダ内務省はユトレヒト市街中央部の病院に入院中の患者が, 異型クロイツフェルト・ヤコブ病と診断されたと公表した。ヨーロッパ当局には事態を通報し, この疾患が他の患者にも感染している危険が無いかどうか調査中であると報じられた。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed, 2005年5月5日 | オランダで「狂牛病」のヒト変異型であるvCJDと最近診断された26才女性が5月3日に死亡し, この神経疾患によるオランダ初の犠牲者になったとこの女性が入院していた病院当局が公表。フランスで新たに2名のvCJD患者が発見され, 同国における患者総数は11名になったと保健当局が述べた。この患者らに献血歴は無いことなどの記載。 | |

| 受理日 | 血対番号 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 | 文献 |
|------------|-------|---------------|---|---|----|
| 2005/8/12 | 50102 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed, 2005年6月11日 | ポルトガルのDGS(Portuguese Main Directorate of Medical Services) は、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病が疑われる青年男性患者1名の存在を発表した。ポルトガルは初のvCJD疑い患者を発表し、フランスは13例名の患者を確認した。 | 8 |
| 2005/8/12 | 50102 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed, 2005年7月0日 | ポルトガル保健監督局総長は最近、検査室診断結果(扁桃生検)で判明したポルトガルにおける最初のvCJD可能性患者を報告した。12才男子であり、専門家による医学的治療を受けている。イギリスへの渡航歴は無い。ダブリンにの病院入院中の患者がvCJD感染を疑われている患者が病院入院中と述べた。 | |
| vCJDの疫学 | | | | | |
| 2005/8/12 | 50102 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | HPS Weekly Report, Vol.39, (2005/3), 10 (2005) | 英国の1990年代における感染に関連したvCJDによるさらなる死亡は比較的少ない、英国におけるvCJDの発生は減少、リンパ網内系細胞組織の調査結果により、臨床データの予想よりも実質的に高いvCJD有病率が示された。現在のところvCJD症例の予測は不確実なままである(輸血を介した感染症例が最近確認されたことから)ことなどについて記載されている。 | |
| 2005/6/13 | 50052 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | International Journal of Epidemiology 2005;34:46-52 | フランスはvCJD症例数が世界で2番目に高い国であり、英国から輸入した牛肉(英国の牛肉総輸出量の60%がフランスに輸出)によるBSEの曝露がその主な原因と考えられる。フランスにおける将来のvCJD発症数を、感染性のある牛肉製品の接種量や1980~1995年に英国に滞在した期間などのシミュレーションから予測した。シミュレーション結果から将来のvCJD発症数は33症例と予測された。英国での滞在期間はvCJD発症数に影響を及ぼさなかった。 | 9 |
| 2005/8/12 | 50102 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed, 2005年4月4日 | United Press International (UPI)社は、1971年に死亡したフランス人女性の脳が変異型クロイツフェルト・ヤコブ病に合致した病理所見を示しており、脳標本を再検査しているとの情報を入手。もしこの発見が確定されれば、従来考えられていたよりも20年も早くヒトに感染していたことになる。NIHの研究者であったBruce Johnson博士は、2000年にこの女性患者の脳を検査し、変異型CJDの患者脳に認められる組織変化を確認したと証言。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed, 2005年6月6日 | ヨークシャー州のvCJD患者集団発生での4名中の一人であった18歳の少年が1997年3月にvCJDで死亡した。この少年は登録された献血ドナーである事実が隠されていて、供血を受けた7人が追跡された。2004年9月に専門家らが、vCJD患者の血液を輸血された事実を知らせるべきだと決定するまで7年間、この事実は隠された。1980年代に脳外科手術によって、患者約50人がCJDに暴露された可能性が出ている。カルテが廃棄されたため多くの患者の特定は困難であった。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省Publications and statistics,2005/0231, 2005年7月1日 | クロイツフェルト・ヤコブ病月間統計(2005年7月1日現在): 2005年7月1日現在の2005年のCJD診断確定例および可能性例の総死亡例数-24(散発例19, 医原性1, 家族性1, GSS(Gerstmann-Straussler-Scheinker syndrome)1, vCJD2) | |
| プリオンの科学的進展 | | | | | |
| 2005/6/17 | 50053 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Science 2004;306(5702):1793-6 | 129位のアミノ酸がバリンであるヒトプリオン蛋白質は変異型クロイツフェルトヤコブ病(vCJD)の発現を阻止する。 | |
| 2005/6/13 | 50052 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Sciencexpress report 2004年11月11日 | BSE由来プリオンでのヒトへの1次及び2次感染は、プリオンソース及びレシピエントの遺伝型の如何により、孤発性CJD様表現型もしくはvCJDに加えてさらに新規の表現型をもたらす可能性があり、また、ヒトプリオン病の患者全てをPrPScのタイプに分類したサーベランスを行なうことによって、BSE曝露パターンやvCJDプリオンの医原性ソースに関連した新規のPrPScタイプや特定のPrPScサブタイプの相対的頻度の変化を早期に発見できるであろうとする報告である。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed,2004年12月6日 | 輸血用血液の安全性確保に関して懸念が高まっているが、英国国立血液サービス(English National Blood Service)の国立輸血微生物学研究所によれば、vCJDの病因である感染性の異常プリオンが、輸血によって伝播される可能性を示唆する証拠が増えている。London大学の研究チームによる、ヒトプリオン蛋白発現トランスジェニックマウスへの異常プリオン感染実験の結果、すべてのヒトがBSEの異常プリオンに感受性があると判明。プリオン病は、トランスジェニックマウスでの遺伝子型によって表現型が変化する。 | |

| 受理日 | 血対番号 | 感染症(PIT) | 出典 | 概要 | 文献 |
|-----------|-------|---------------|--|--|----|
| 2005/8/12 | 50102 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed,2004年12月8日 | 1986年にBSEが同定されて以来、183000頭以上のBSE症例が英国内で確認された。そのうちの95%以上が2000年以前に確認されたが、今年の新規症例数は最低レベルとなっている。日本の動物衛生研究所は94カ月令のBSEウシの末梢神経組織と副腎から、BSEの原因物質である異常プリオン蛋白を検出。ポルトガルの生きたウシ、牛肉および関連する家畜製品輸出制限が解除された。 | |
| 2005/6/13 | 50052 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Cell 2005;121(2):195-206 | 異常プリオン蛋白質をIn vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | http://medilexicon.com/medicalnews.php?newsid=20065&language=spanish | 当初ウシ、ヒツジ、および他の動物における感染性プリオンを検出するために考えられた構造依存性イムノアッセイ(GDI)はこれまでの検出法よりもより早くより正確に検出可能。免疫組織化学的手法により科学者らはタンパク酵素に耐性を示す脳内のプリオンを確認することができることなどについて記載。 | |
| 2005/6/17 | 50053 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-1126 | レクテン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。 | |
| 2005/6/17 | 50053 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | J of General Virology 2005;86:1571-9 | TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrP ^{Sc} の分布を検討した。 | 10 |
| 2005/6/17 | 50054 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Neurology 2005 ;64(5):905-7. | R208H変異がPrP ^{Sc} の特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼす。 | |
| 2005/6/13 | 50052 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6 | CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質(rPrP ^{Sc})もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質(sPrP ^{Sc})も両方の異常プリオン蛋白質(PrP ^{Sc})を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。大多数のイムノアッセイ法では、孤発性CJD(sCJD)患者の脳の灰白質及び白質の両方で全PrP ^{Sc} の90%あまりを占めるsPrP ^{Sc} が正常プリオン蛋白質(PrP ^C)を除去するためのプロテアーゼ処理中に消化されてしまうことにより、PrP ^{Sc} 量を過小評価することになることが明らかとなった。孤発性CJD患者8人から18の脳部位が組織学法、免疫組織化学法(IHC)、CDI法で検索したところ、それぞれ3部位(17%)、4部位(22%)、18部位(100%)が陽性であり、CDIはより高感度であるため、IHCが免疫診断技法の中でスタンダードとして使用されるべきでない。扁桃や虫垂がIHCによってのみ評価されているため、検出しそこなっている可能性がある。多数のプリオンサンプルをCDIで検査することによって、プリオン病の疫学が変わるかもしれない。 | |
| 2005/8/12 | 50102 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed, 2005年2月7日 | 英国で将来変異型ヤコブ病による多数の死亡患者が発生する可能性は低いと発表された。異常プリオンは感染動物の脳と神経系にのみ障害を起こすと考えられてきたが、病因となるタンパクがマウスを用いた実験に基づいて、他の臓器にも分布しうることが発表された。血液製剤・輸血による変異型クロイツフェルト・ヤコブ病暴露の危険性が、FDAの伝染性海綿状脳症諮問委員会の主要な議題であった。感染の危険性を減じる新技术を期待する同委員会の提案に、Pall社がその新たな異常プリオン除去技術に関する最新の科学データを発表した。 | |
| 2005/6/13 | 50052 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Sciencexpress report 2005;307:1107-10 | 腎臓、膵臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン-α又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。 | |
| 2005/6/17 | 50053 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | The Lancet 2005 ;365(9461):781-3 | BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は無症状であった。 | |
| 2005/6/17 | 50053 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Transfusion 2005;45(4):504-13 | 非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP ^{Sc} 発現について。 | 11 |
| 外国措置関係 | | | | | |
| 2005/6/17 | 50053 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Irish Blood Transfusion Service 2004年10月31日 | アイルランド輸血サービスはvCJD伝播リスク低減のため、英国潜在歴や手術歴等に新たな供血制限を発表した。 | |
| 2005/6/7 | 50055 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ABC newsletter 2004年12月17日 | オランダは血液を介したvCJD伝播への懸念から2004年12月9日、供血者に関する新たな禁止措置を実施することを発表した。 | |